

① 広報のあがり

1153



すかれるボーイスカウトに 登別第一団発足

四月二十九日中央公民館において、ボーイスカウト登別第一団の発足式がおこなわれました。

現在の会員は一三名ですが、皆は「他の人々を助けよう」「体を強く心をすこやかにして、徳をやしなおう」を目標に、みなさんからすかれるスカウトになろうと決意を新たにしています。

今年の主な事業は、通信技術を身につけ、さらにハイキングなどにより体力の増進を図って、つねに世の中の人々を助けることに目標をおいています。

必ず横断歩道をと

交通指導

発足後の五月十一日、幌別十字街で、黄色い羽根と、チラシを配り、歩行者に交通安全を呼びかけました。

とくに、交通のきまりを重点に、横断歩道を必ず渡りましょうと歩行者の交通安全の徹底を呼びかけていました。

今後のボーイスカウトの活躍が大きく期待されています。

十字街でおこなったボーイスカウトによる交通指導

町の財政事情

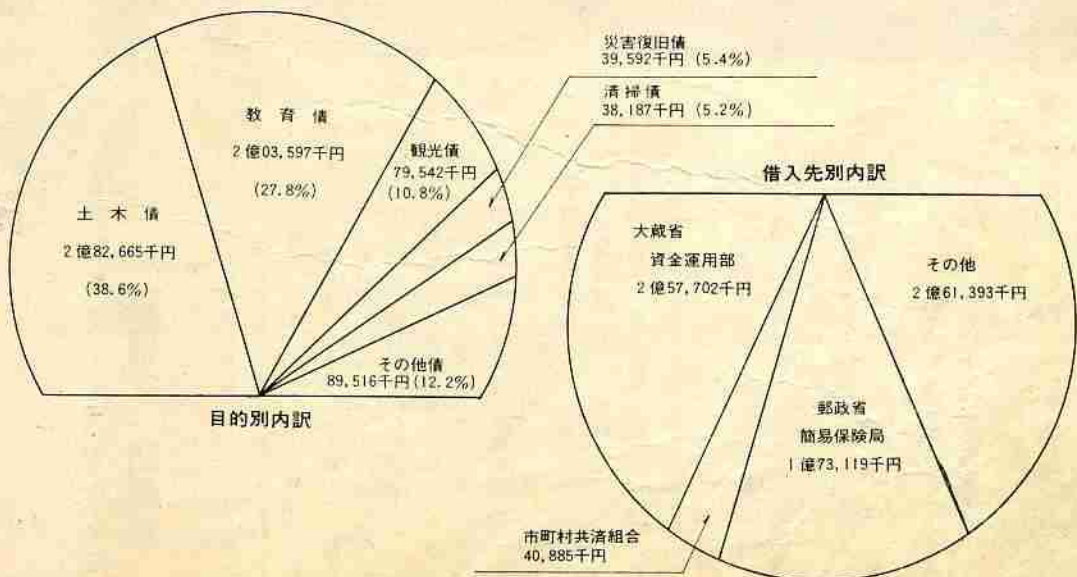
町では毎年2回、町の財政事情をお知らせしていますが、今回は、43年度予算がどのようにになっているかを3月31日現在で図表によりお知らせします。

目的別にみた一般会計予算執行状況

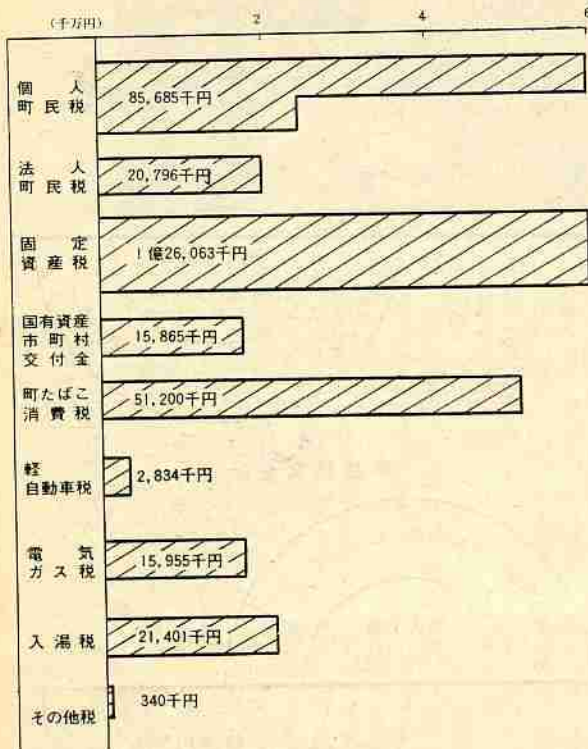
歳 入		予算総額一〇億七、四五八万五千元	歳 出	
3億40,139千円 (95.9%)	町 税		1億90,958千円 (93.7%)	総 務 費
2億47,672千円 (100.4%)	地方交付税	1億74,578千円 (96.3%)	土 木 費	
1億25,679千円 (81.1%)	国庫支出金	1億58,360千円 (86.1%)	教 育 費	
87,523千円 (28.3%)	諸 収 入	89,147千円 (80.3%)	民 生 費	
87,100千円 (26.5%)	町 債	81,905千円 (82.4%)	農 林 水 産 業 費	
64,784千円 (100.0%)	繰 越 金	79,447千円 (99.9%)	公 債 費	
(65.8%)	道 支 出 全	78,741千円 (96.9%)	消 防 費	
46,754千円 (77.8%)	そ の 他	65,445千円 (95.9%)	労 働 費	
73,928千円		1億56,004千円 (87.0%)	そ の 他	
収入済額	8億80,311千円 (81.9%)	支出済額	9億66,905千円 (90.0%)	

予算額 執行済額
 () 内は執行率

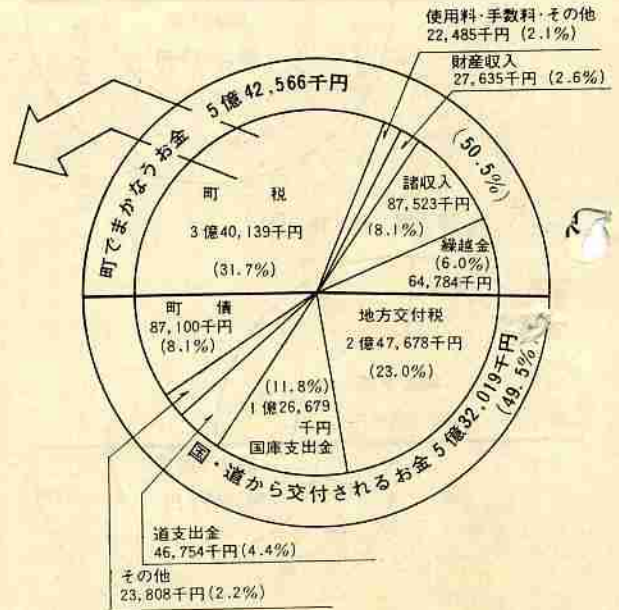
町で借りているお金



町税の内訳



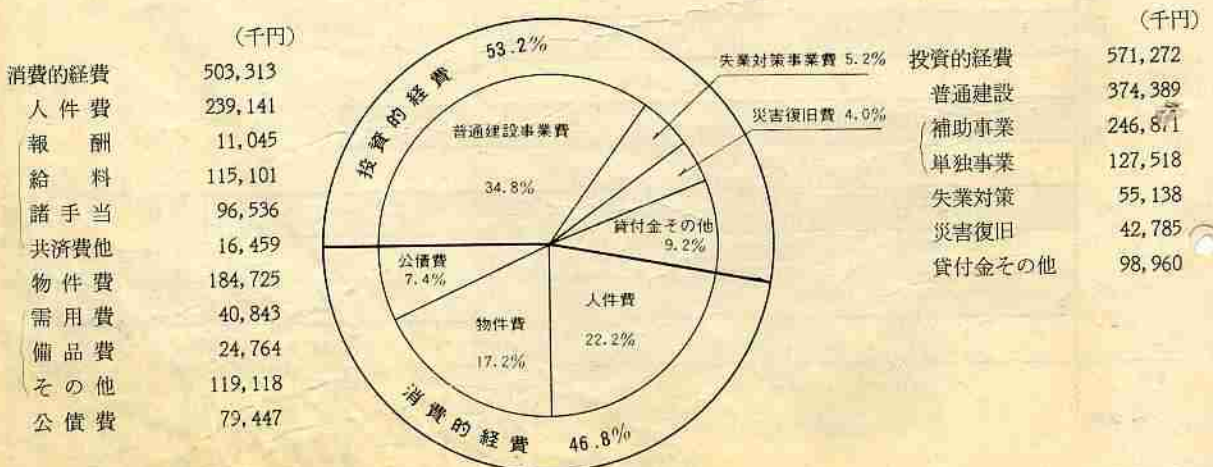
一般会計の財源内訳



町有財産の内訳

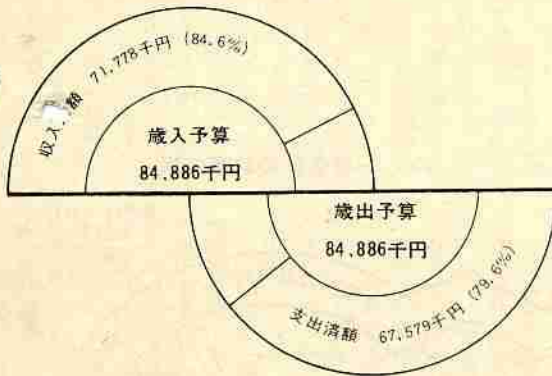
土地	建物	金員
2,826,651 ^{m²}	69,962 ^{m²}	1億08,569千円

性質別にみた一般会計歳出予算

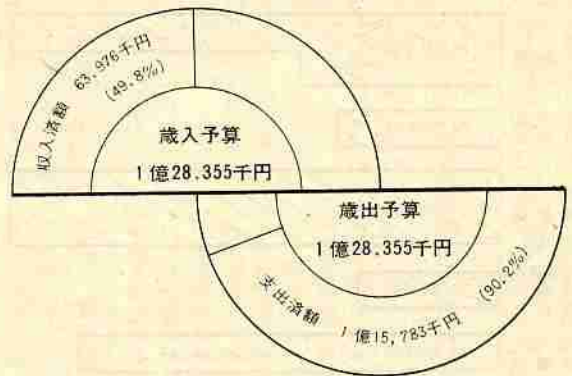


特別会計予算執行状況

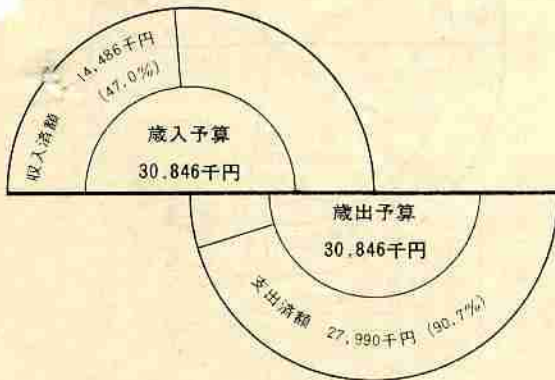
国民健康保険会計



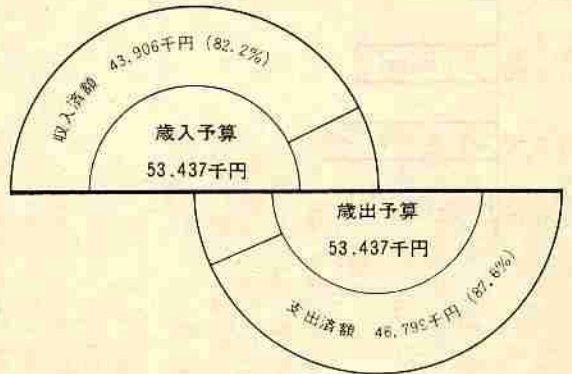
観光会計



清掃会計

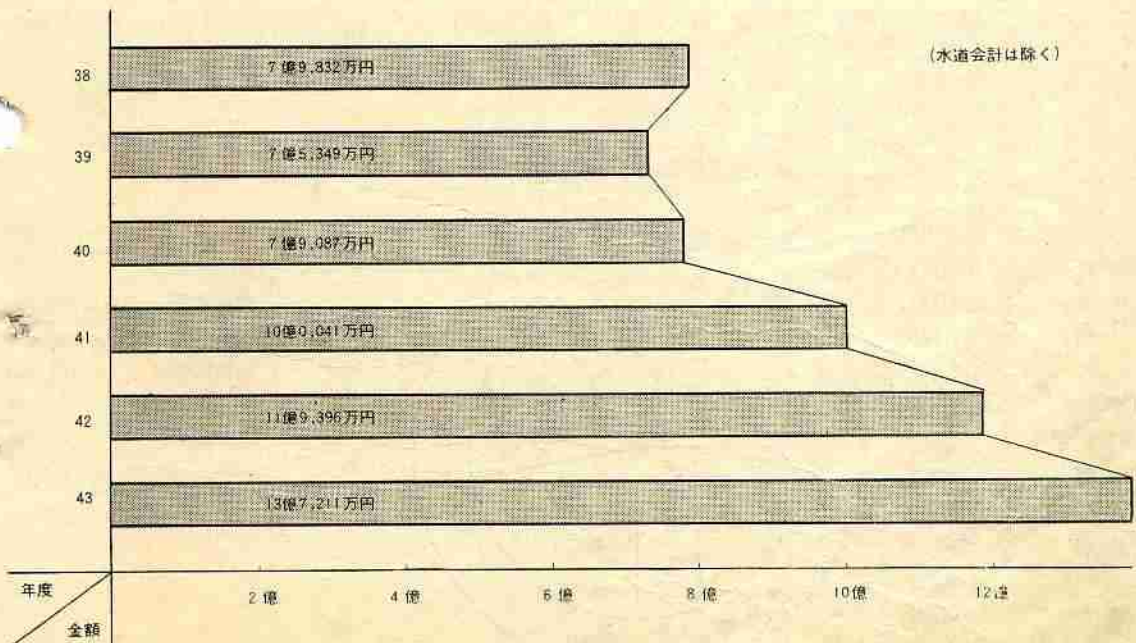


学校給食会計



予算総額の推移

(水道会計は除く)



登別町民憲章の解説

—— 二大特色をいかに ——



婦人大会で声たからかに町民憲章を朗読

開基百年を記念して、昨年九月制定した登別町民憲章。大人ばかりでなく子どもにも理解が得られるよう、また永く記憶にとどめておくことができるように、平易で簡潔に制定されました。この町民憲章の内容がどうなっているかを解説してお知らせします。

町民憲章の意義

町づくりは、町ぐるみで町民の協力和努力によってなされるもので、町づくりのため町民として最も基本となることを定めた心のおきてである。

その精神は、町民ひとりひとりの生活の中にかざされて、はじめにこれが制定の意義があるのである。

前文と本文から構成

登別町民憲章は、前文と本文の二つの部分から構成されている。前文は

わたしたちは、古い歴史と美しい自然に恵まれた登別の町民です。ここにわたしたちの心がまえを定めて、よりよいまちをつくることに努めます。

本文は、一、心身をきたえよく働いて、活気あふれる豊かなまちをつくりましょう。

二、親切をつくしきまりを守って明るく住みよいまちをつくりましょう。

三、自然を愛し力をあわせて、緑と空気が太陽のいっぱいあるきれいなまちをつくりましょう。

四、未来をつくる青少年の、健全な夢の育つまちをつくりましょう。

次に前文について略解してみると
① 登別町の二大特色
◇ 古い歴史のまち 蝦夷が島の夜明けと同時に開拓の跡が打ちこまれた百年の歴史は、本道に打ちもついても古い町の一つである。きびしい自然と闘いながら困苦の生活の中で産業の開発計画をたてた進歩的な考えは、今日なお無形の遺産としてわたしたちのよき指標となり、精神的なバックボーンとなっている。

前文の後半の精神は、町ぐるみの実践活動に努めます。の一語に含めて、その結びとした。
商工青年学院生募集
町教育委員会では、若いみなさんがお互いに交流しながら社会性を身につけることができるようにと、去る五月七日より青年学院を開設しました。
この学院の開設日は、四十四年五月から四十五年三月まで、毎週第一、二、三の水曜日(十九時~二十一時三十分)中央公民館で開かれます。
学習内容は、一般教養(時事問題、青少年問題、登別町史、英会話、レコード鑑賞)、家事(料理講習、栄養学、生活設計)、社会体育およびレクリエーション(ソフトボール、卓球、フットダンス、歌声)などで、専門講師を招いて学習することになっていきます。入学ご希望の方は常時受け付けしておりますので、中央公民館内社会教育係



熱心に学習する学院生

袋づめ収集にご協力ください

ことし四月よりみなさんの負担を解消するため、ごみ処理手数料を無料とし、また収集回数を増し住みよい、きれいな町をつくるため努力してきました。さらに次の利点(臭気がでない、はえの発生を防止できる、ごみから水気がでない、収集作業が能率的になる)を、収集車に積み込むときホコリがないので作業員の健康によい)から、各家庭から出るごみは、できるだけ袋に入れていただくようお願いすることにいたしましたので、

便槽内に異物の投入はやめよう

便槽の中にせいのり製品、木、鉄石などの異物を投げ入れると、汲取車、その他し尿消化槽処理のとき機器などが故障して、汲取り業務が円滑におこなわれなくなりまです。投入しないようみなさんのご協力をお願いします。

本文の解説は、次号でお知らせいたします

昭和六十一年の「ビジョン」

登別町総合開発計画から

先月号では、総合開発計画の「基本目標」と、計画達成のための主要課題についてお知らせしましたが、今月号は、計画の内容がどのようになっているかを産業経済振興計画を中心にお知らせします。

農畜林業

農畜林業の将来方向は、①経営と生活の分離を明確にした新しい「企業の農業」を目標に、自立経営の育成と協業化を推進して、生活水準の向上を図り、また生活環境の整備推進をとおして、労働力の流出を防止する。②食生活の質的な向上によって耕種も、その需要に対応したものを導入する。③国際的に通用する農畜産物価格を維持するため、従来の経営形態から脱皮し近代化を進める。

この基本的将来方向を見定めたうえで、農業経営体数と就業人口の将来をみてみると、自営農家は、昭和六十一年に一一〇戸（四十二年は一四二戸）、協同企業体は、昭和六十一年に五（四十二年は四）になる。また、自営農家の就業人口は、昭和六十一年に二三〇人（四十二年は二八六）、協同企業体の就業人口は、昭和六十一年に九三三人（四十二年は八二二人）になる。

以上の基本方向から将来目標を設定し、この目標を達成するため

(2)

次の施策を講ずるものとする。

- ◇ 農業経営の構造改善
- ◇ 生産基盤の整備拡充
- ◇ 生産性の向上
- ◇ 流通機構の整備
- ◇ 生活環境の改善
- ◇ 農業組織の機能強化
- ◇ 農業金融対策の推進
- ◇ 農業関連産業の育成

水産業

水産業の将来方向は、従来の捕獲一方の漁業から栽培漁業へ転換させ、水産資源の維持増大を図る。

この基本的将来方向と「道南太平洋地域沿岸漁業構造改善基本計画」から、昭和六十一年の水産業規模をみてみると、総生産額は二億三千四百八十八万六千円となる。そのうち沿岸漁業は一億三千二百四万円で五七割を占め、沖合漁業は九千九百四十四万六千円で四三割の比重となる。

以上の基本計画における構造改善策を基に、次の水産業の振興策を講ずるものとする。

- ◇ 沿岸漁業経営の近代化
 - ・ 五、五一〇、階層の育成、
 - ・ 漁船の整備
 - ・ 営漁改善の推進
- ◇ 沿岸外漁業の振興
 - ・ 生産基盤の整備
 - ・ 養殖事業の推進
 - ・ 漁港の整備

鉱工業

流通加工の改善および振興
 ・ 生鮮魚の流通改善
 ・ 漁家加工の振興

- ◇ 漁業協同組合の整備強化
- ◇ 漁村生活環境の改善整備
- ◇ 海難防止および水質汚濁防止

通産省の「工場適地調査」によると本町は、食料品製造業、紙パルプ、紙加工品製造業、化学工業、鉄鋼業、金属製品製造業、機械製造業の六業種が、適地工業とされている。

したがって、鉱工業の将来方向は、①総合的な土地利用計画の中で、工業の振興と立地促進を強力に推進する。②工業立地条件に適応した業種を考慮し、各種条件の先行的な整備を進める。

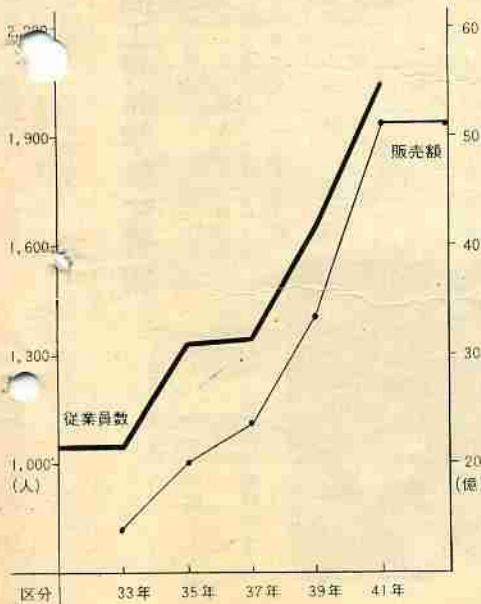
この将来動向を探りながら昭和六十一年における工業規模をみてみると、工場数は、二二六（四十二年は七〇）、従業者数は四、一三五八（四十二年は一、四五八）、年間出荷額は二百三十五億円（四十一年は五十八億八千万円）となる。

これらの、工業の将来動向、将来見通しから次の諸施策を講ずるものとする。

- ◇ 生産基盤の整備
- ◇ 工業用地および労働力の確保
- ◇ 公害防止対策
- ◇ 新規工業の立地促進
- ◇ 鉱業の振興

商業の将来方向は、人口分布バ

商業の従業員および販売額の推移



ターンの変化および交通体系の整備に伴なり、消費者の空間的移動パターンの変化を基本要因として、従来の商業形態から脱皮しなければならぬ。

また、卸売業は、地場小売業の進展に見合う拡大が見込まれ、室蘭市における地域的な卸売業の第二次の段階の立地形態となる。小売業は、伸長する将来人口の拡大消費に伴う進展が予想される。

以上の将来方向から本町の主要な四地区の商業機能は次のように方向づけされる。

鷲別地区——室蘭市中央卸売市場を拠点とする広域的卸売業と第二次の卸売業を整備し、さらに近郊商店街との補完関係を考慮しながら適正な商店街を造成する。

幌別地区——登別町の商業、業務地として成熟させ、第二次の卸売業、地元購買率の高い業種の小売業を配置する。

登別地区——消費人口の規模に対応した適正な小売業種を中心に成熟を図り、購買率を高める。

登別温泉地区——観光客を中心とした飲食店、土産品店など魅力ある商店街を造成する。

この基本方向をもとに、昭和六十一年の規模をみると、卸売、小売飲食店を含め、商店数九八五（四十一年五五五）、従業員五、二七八人（四十二年二、〇八七）、販売額百三十六億二千四百万円（四十一年五十二億一千七百四十万円）となる。

以上の将来方向から、次の諸施策を講ずるものとする。

- ◇ 店舗の大規模化、共同化、仕入れ部門の共同化
- ◇ 店舗に付帯する駐車場、遊園地など買物サービス施設を整備
- ◇ 商店組織の充実をはかり、魅力ある商店街の育成事業を推進

各地ニュース

実践しながら

富浦で防災避難訓練

去る四月十八日、全道一せいに防災象予警報伝達訓練がおこなわれ、この訓練に町内の富浦が参加し、危険民家二戸(三〇人)が子どもや必需品を背負って、山側の富浦会館へ避難しました。



た。

この日は、午前九時四十分ごろ十勝沖で地震が発生し、富浦の海岸に大津波が来襲して大きな被害を生じる恐れがあるという想定で訓練がおこなわれ、九時四十八分富浦消防分団よりサイレンが吹鳴され、分団員と富浦婦人防火クラブ員を招集し、十時二分の避難命令により役場職員五名と消防本部および消防団員一〇名、富浦婦人防火クラブ員一〇名、警察官三名が出動して、富浦会館まで住民の避難を誘導しました。とくに、婦人消防クラブ員の活躍はめざましいものがありました。また、富浦保育所の幼児三〇名も保育さんに引をつかれて安全な場所に避難しました。富浦の住民は、災害の発生に対処するため自主的に参加し、多くの成果をあげることができました。

勲五等双光旭日章に輝く

国分恒次さん

春の叙勲が四月二十九日発表さ

れ、当町の国分恒次さん(来馬)

が、輝く勲五等双光旭日章を受けることになり、去る五月十二日東京都内の機械振興会館において、

通産省より伝達されました。

これは、長年化学の研究と生産に取り組み、産業開発を軌道にのせた化学部門の先駆者として贈られたものです。

町づくり

行政懇談会開く



熱心に話し合った行政懇談会

4月28日午後1時より、中央公民館に国・道など関係官公庁の代表が約20名出席して、町づくりを進めるため、意見の交換をおこない意志の疎通を図る行政懇談会が開かれました。

まず高田町長より、今日の登別町の行政(新市制問題)についてあいさつがあったあと、44年の主要事業と国・道の関連事業について、それぞれ説明がありました。

このあと、各機関への要望事項として①本町西通り踏の警報機調整について ②警別ガードの排水および1車線標識設置について ③警別駅前交差点改良について ④第3小学校新設に伴う安全施設整備についてなど要望しました。

また、関係機関より町に対して要望があって、日常生活に直結した数々の町づくりについて熱心に話しあいました。

登別地区で剣道大会

四月二十九日午前九時より登別の尚武館(剣道場)において、剣道スポーツ少年団結成五周年と尚武館設立一周年を祝って、剣道大会がおこなわれました。

この日、剣道スポーツと少年地元父兄など約六十名が参加して、少年による紅白試合と居合道、学年別の優勝戦、また各先生による日本剣道形、居合道、模範試合、地げい古がおこなわれ、激しい気合いとしないの音が尚武館いっばいにひびきわたり、日頃の練習のせいか披露されました。

この尚武館は、昨年登別地区に建設され、青少年の心身を鍛える

場として期待が寄せられている一方、スポーツ少年団は、これからの登別の次代にならうりっぱな少年になろうと、額に玉の汗を流して練習に励んでいます。

一〇〇名が参加し

山火事予防パレード

四月二十日から五月十九日まで全国いっせにおこなった。春の火災予防運動期間の五月八日、室蘭、白老の営林署、森林愛護組合および団体などから約百名が参加して、山火事パレードを町内にくりひろげました。

この日、広報車などにより、林野火災を防止するため、入林するときの心がけや火入をするときの注意などを住民にPRし、約三時

間にわたり山火事の絶滅を呼びかけました。

青少年団体連絡協議会

役員決まる

登別町青少年団体連絡協議会では、四月十八日役員の出選がおこなわれ、次のとおり選ばれました。

- 会長 今 平人(幌別)
- 副会長 佐々木 進(幌別)
- 事務局長 渡辺 隆良(富浦)
- 次 長 本多 隆一(温泉)
- 次 長 高田 正紀(登別)
- 監 査 高野 照美(幌別)
- 小池 雄三(温泉)
- 昌寺 昌俊(社宅)
- 奥山 重信(幌別)
- 文化部長 鎌谷 京子(登別)

水道の話



水道事業の現況

町では、水道事業の健全な運営をするため、経営の合理化を図り冗費を節約し、営業の向上に努力しておりますが、年々増加する経費や施設の拡張などに就いていけないのが現状であります。

当町の水道基本料金は、現在三三〇円ですが、全道の平均をみると四二七円(最高は八二〇円)となっております。

なお、四十三年度の水道事業経営の収支内容がどうなっているかを、六月号の広報でお知らせします。

水道週間中

無料で修繕します

毎年六月一日から七日間、全国的に水道週間となっております。当町でもこの週間中、施設の見学と給水装置の無料修繕をして、水道サービスをおこなうことになりました。

施設見学

幌別浄水場と登別温泉浄水場を見学希望者に開放します。なるべく団体またはグループ、おでかけください。見学者には、水がつく

られるまでの順序などを係員が説明します。

給水装置の無料修繕

パッキンの取替えや小修理を無料で修繕サービスしますので、役場水道課(二、一一一番)にお申し出ください。もし、この期間中に修繕が終らない場合であっても、期間中に受け付けたものであれば、無料で修理します。

美 挙

(愛情銀行へ)

コーヒーバー・ルイ 千百十五円
エンゼル子ども会(温泉)
衣類九十五点
五十嵐善次(米馬) 衣類二十点
岸沢吉本(幌別) 衣類三十五点
柳沼高杉(米馬) 古切手百四十枚

行政相談委員に

高野定治さん

行政管理庁では、全国の市町村に「行政相談委員」をおき、役所の仕事に対する苦情の申し出を受け、必要なあっせんをおこなっております。

当町では、昨年まで松木マサエさんがこの仕事に活躍してきましたが、任期である三月三十一日付で辞任しましたので、このたび行政管理庁長官より高野定治さん(字米馬七十九番地の十)が、道管区行政監察局所属の「登別町の行政相談委員」として委嘱されました。

行政相談委員の仕事

行政相談委員は、住民のかたがたから役所の苦情・意見(恩給、年金、登記、国税、保険、生活保護、環境衛生、農地、郵便、道路交通、公営住宅、河川、公害などのほか国鉄、電



高野定治さん

ついて「テキパキやってもらえない」「こうすればよいと思う」「不親切なめにあつた」「どうすればよいかわからない」などをきいて、親身になってお世話しております。
直接口頭で申し出られるのがよいですが、電話や手紙でもかまいません。
なお、相談に関しての費用は一切ありません。また、申し出についての秘密は守ることになっておりますので、お気軽にご利用ください。

町の人口

4月末現在

総人口	44,245人	(90増)
男	22,440人	(24増)
女	21,805人	(66増)
世帯数	11,864世帯	(87増)

()内は先月との増減

名刺や封筒に
市外局番をお忘れなく

当町の市外局番は
幌別(014382) — 2000
登別(014383) — 60
登別温泉(01438) —
④ — 2000
鶯別(014387) — 7000

今月の納税

◎固定資産税(第1期)
◎自動車税(第1期)
5月31日までです。
忘れず納期限内に納めましょ
う。

